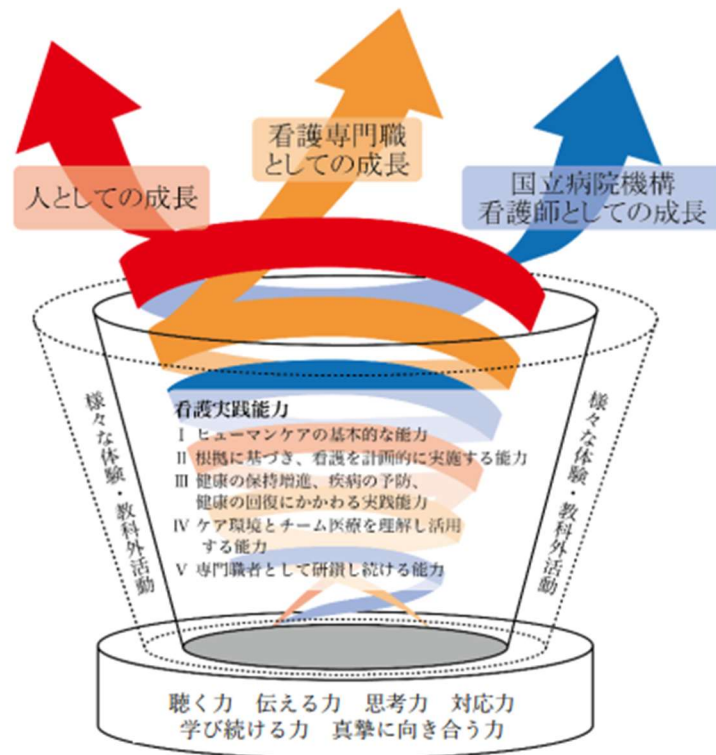


## カリキュラムポリシー

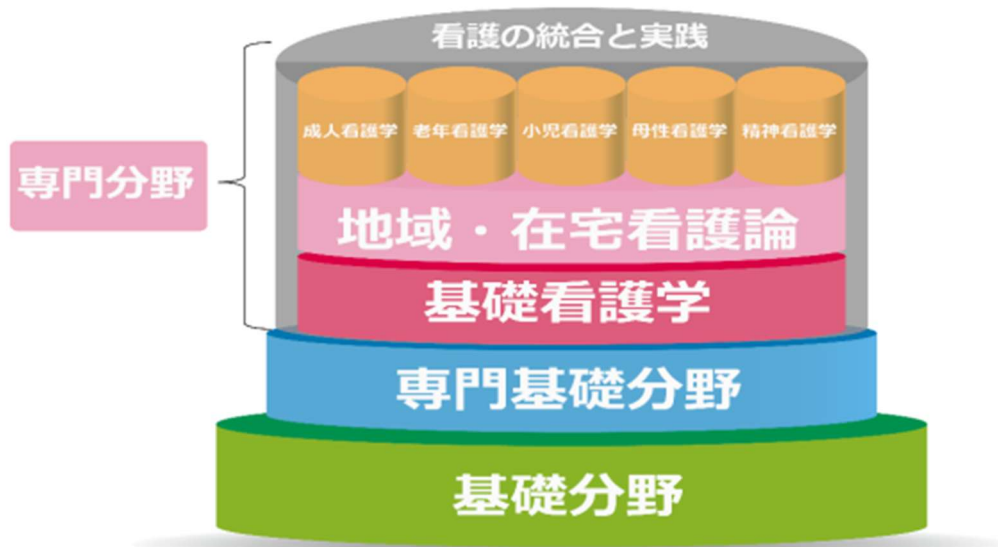
2022 共通カリキュラムでは、国立病院機構の理念である「患者の目線に立って懇切丁寧に医療を提供」できる看護専門職の基盤となるディプロマポリシーの実現に向けて以下の方針でカリキュラムを編成・実施する。

- (1) 高等学校教育等までに培った聴く力、伝える力、思考力、対応力、学び続ける力、真摯に向き合う力を土台として、看護実践能力を身につけるために人としての成長、看護専門職としての成長、国立病院機構看護師としての成長の成長、国立病院機構看護師に向けての成長の基盤となる体系的なカリキュラムを編成する。



《看護実践能力概念図の考え方》

- (2) 看護師に求められる看護実践能力の獲得に向けたヒューマンケアの基本的な能力、根拠に基づき看護を計画的に実践する能力、健康の保持増進、疾病の予防、健康の回復にかかわる実践能力、ケア環境とチーム医療を理解し活用する能力、専門職者として研鑽し続ける基本的な能力を修得するために必要な授業科目を段階的に配置する。



《カリキュラム構造図》

- (3) カリキュラムの構造図としては、基礎分野、専門基礎分野を基盤として看護の専門分野を学ぶ。看護の専門分野の構造については、基礎看護学、地域・在宅看護論を看護の土台として位置づけ、成長・発達および看護の特徴を基軸として成人看護学、老年看護学、小児看護学、母性看護学、精神看護学を平行して学ぶとともに、これからの医療情勢や看護情勢に対応するために必要な内容を看護の統合と実践で学習する。
- 学習の順序性は、単純から複雑な内容となるように考慮し、基礎分野・専門基礎分野・専門分野を漸進型として学習の段階を追って理解できるように配置する。
- (4) 看護の対象である生活する人々（多様性と個別性の尊重）と生活する場（在宅・地域含む）の理解と必要な援助が提供できる臨床判断能力の修得のためにシミュレーションを活用した演習を強化する。
- (5) 看護専門職として安全で確実な看護基礎技術を身につけ実践力を向上させるために能動的学習（アクティブラーニング）などの教育方法を取り入れる。
- (6) セーフティネット分野の医療は国立病院機構の役割の一つであることから、看護者に求められる高い倫理観の醸成に向けた授業科目については、関連する授業を段階的に配置するとともに、演習や実習の体験からリフレクション等で学ぶ。
- (7) 医療における ICT の発展や AI 導入に対応していくために、情報や情報手段を主体的に選択し活用する技術と医療専門職としての情報倫理について、演習を通して学ぶ。
- (8) 対象の課題解決に向けた関係者の連携・協働およびチームの一員として互いの職種の特性を知り、かかわる職種や多職種で取り組む支援の在り方について、講義・実習を通して学ぶ。
- (9) 学習目標の達成度について、レポート、筆記試験、実技試験、実習評価等の様々な方法を取り入れ、知識・技術・態度を総合的に評価する。